



# 二中だより

第7号  
令和7年10月31日(金)  
拍江市立拍江第二中学校  
TEL 03-3480-8891  
FAX 03-5497-7362  
<http://www.komae.ed.jp/jh/02>

## 合唱祭『最響』～絆の完全燃焼～ ♪♪♪

校長 植村 多岐

「秋の日は釣瓶（つるべ）落とし」と言われるように、日没が早くなってまいりました。しかし、放課後の校内には、そのわずかな夕暮れの時間を惜しむかのように、部活動に励む生徒たちの声が響き渡っています。季節の移ろいを感じながらも、生徒たちは日々、学びや活動に全力で取り組んでいます。

さて、先日の合唱祭には、多くの保護者の皆様にご声援いただき、誠にありがとうございました。

今年度の合唱祭は、「最響～絆の完全燃焼～」というスローガンのもと、どのクラスも練習段階から、本校教育目標「**意志と実践**」で熱心な取り組みを見せてくれました。当日は、合唱の前に各クラスが趣向を凝らした劇やダンス、バンド演奏などを披露し、自分たちの個性を表現する姿が印象的でした。まさに、ただの歌のコンクールではない、皆で楽しむことも取り入れた「お祭り」として、笑顔と熱気に包まれた二中ならではの合唱祭の一日となりました。



<3年C組（最優秀クラス）>

合唱そのものの出来栄も見事で、元気よく歌うことを土台に学年ごとの成長や個性がはっきりと表れていました。一人一人の声が響き合い、足りないところを補い合う姿には、「最響～絆の完全燃焼～」というテーマの精神が息づいていました。その背後には、実行委員、指揮者、伴奏者、パートリーダーをはじめ、多くの生徒たちの努力とリーダーシップがあり、リーダーを支えようとした仲間の協力がありました。そして、最高学年である3年生が、圧倒的な表現力と声量で下級生に手本を示し、二中の伝統をしっかりと引き継いでくれたことは大きな成果でした。

二中の学校行事において何よりも大切にしているのは、1番目の教育目標である「**相互敬愛**」の精神です。お互いを尊重し、尊敬や愛情をもって接すること。その心があってこそ、仲間との「**団結**」や「**協力**」が生まれます。今年度も400名を超える生徒が在籍する二中ですが、誰一人として同じ人はいません。それぞれ異なる考えや個性をもちながらも、一つの目標に向かって心を合わせることができるのは、人間のもつ本能的な喜びであり、人生を豊かにする力でもあります。生徒たちは今回の合唱祭を通して、そんな基礎を学べたのではないかと思います。

学年・クラス合唱、クラスアピール、クラスポスター（自由曲イメージ画）、みんなの合唱（有志合唱）など、それぞれの課題は異なりましたが、2番目の教育目標である「**自主自律**」の精神を大事にし、工夫を凝らし、互いに刺激を与え合いながら創造的な表現を見せてくれました。その姿は聴く人・見る人の心を動かし、大きな感動を呼びました。印象的だったのは、生徒たちが互いを讃え合い、全力で応援する姿勢です。会場全体に響いた大きな拍手と歓声が、一体感と温かさを生み出していました。特に、クラスアピールの笑いに包まれた空気から合唱に移る際の静寂と集中。その切り替えの見事さに、私は二中生の主体性や成熟を感じました。生徒たちはこの合唱祭を通じて、仲間とともに一つのものを創り上げる喜びや、支えてくれた人への感謝の心を学んだことと思います。

歌い終え、階段を下りる生徒たちの表情には、何とも言えない達成感と充実感があふれていました。その姿は、完成に至るまでの紆余曲折を経て、クラスや学年が一步ずつ成長した証でした。今回の経験は、学校生活の後半に向けた大きな自信と原動力になることと思います。

最後になりましたが、保護者の皆様には、日頃から本校の教育活動にご理解とご支援を賜り心より感謝申し上げます。今後とも、変わらぬご協力を賜りますようお願い申し上げます。

## 教員も学び合う 一校内研究テーマ

### 「探究型の学びを通して進める“生徒が主語の教育活動”」進行中！

本校では、狛江市教育委員会より「狛江市教育研究奨励校」の指定を受け、令和7・8年度の2年間にわたり、校内研究テーマを「探究型の学びを通して進める“生徒が主語の教育活動”」として取り組んでいます。

子どもたちが予測困難な時代を生き抜いていくために必要な力として、【課題の設定】【情報収集】【整理・分析】【まとめ・表現】を主体的に行う“探究型の学び”を研修しているところです。

この探究型の学びを支えるためには、教員自身も「学び手」として成長し続けることが欠かせません。そのため本校では、教員一人ひとりが授業づくりや生徒理解について意見を出し合い、互いの実践を見合い、共有しながら学び合う研究を進めています。

10月28日（火）には、東京都教職員研修センターより3名の講師を迎え、1年A組で国語、2年A組で理科、3年B組で社会の研究授業を実施しました。

国語では教材「蓬莱の玉の枝～竹取物語から～」を用い、「説得力のある話し方を身につける」ことを目標に、4人班でより良い発表をめざして話し合い、音読練習に取り組みました。

理科では単元「天気とその変化」に入る前段階として、「天気に関して疑問に思うこと」をテーマに調査活動を行い、表現方法を選択して発表しました。

社会では単元「私たちの暮らしと民主政治」において、「より良い社会をつくるために、私たちは政治とどのように関わっていく必要があるのか」を中心課題とし、生徒一人ひとりが自分の主体的な学びを深めるために、教室または図書館のいずれかを選択し、教科書・資料集・図書館資料・インターネットなどを活用して、情報を収集しました。

授業後には3つのグループに分かれて協議会を開き、授業者の意図や生徒の学びの様子をもとに意見交換をしました。その後、各講師から「探究型の学び」の視点でご指導・ご助言をいただき、次回の授業づくりに向けて多くの示唆を得ることができました。

探究的な学びは、子どもたちだけでなく、私たち教師にとっても「探究の道」です。これからも教員同士が互いに学び合いながら、子どもたちの学びをより豊かにする授業づくりを進めてまいります。

保護者・地域の皆さまにも、今後とも学校の研究に関心をお寄せいただき、ご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

